

校長室だより No.15 12月2日(月)

「開花し、突破し、未来へ繋いだ2日間」(第4回情報ITフェア)

「Interface 開花せよ、突破せよ、そして未来に」をテーマに掲げた今年の情報ITフェアが昨日大盛況のうちに閉会しました。

今年の来場者数は2291名。多くの商業高で開催される販売を中心とした〇〇デパートのような集客数にはとうてい及びませんが、体験型講座が中心の学校イベントにこれだけの来場者があったと言うことは驚きでもあります。特に今年は、来年度からプログラミングの授業が小学校で行われるという背景があったためか、小学生を中心とした家族連れの来場者が大変多かったのが印象的でした。

情報ITフェアは「ITの知識・技術」をサービスとして提供し「生徒と教員、来場者の皆様が楽しくITについて学べる場」を目指して行われている日本の高校では唯一無二の取り組みであると自負しています。今年も「起業家」と呼ばれる20数名の生徒たちが中心となり、4月から企画・運営を自主的に行い、チラシ・ポスターの作成や広報計画に至るまで生徒自らが行いました。

冒頭に書いた「開花せよ、突破せよ」は「勇気をもって自分の限界を突破すること。新しいものへの挑戦すること。」という生徒たち自身の目標が込められています。文字通り生徒たちは「少しでも来場者の方に喜んでもらおう」「指示されるのではなく、自分で考えてできることをやろう」を合い言葉に、一人一人が本当に勇気を持って新しい一歩を踏み出してくれたと思っています。

会場を訪れた多くの方にお褒めの言葉をいただきましたが、閉会式で生徒に伝えたいくつかを記したいと思います。

- ・「多くの生徒に質問をしてみたが、どの生徒もこちらが期待する以上の答えを返してくれた。自分の役割や全体のことをしっかりと把握している証拠だと思う。」(視察に来ていただいた学校関係者)
- ・「昨年から参加しているがブースを手伝ってくれる生徒が常に「どうすればお客様に関心をもってもらえるか、楽しんでもらえるか」を考えて行動していることに感心し、こちらの方が影響を受けた。自分で考えて行動できる、こういう生徒を採用したい。」(ブースを出していただいた企業)
- ・「とにかく生徒の皆さんの挨拶が素晴らしく気持ちがいい。どうしたらこんな挨拶ができるようになるのか？」(本校の卒業生)

生徒たちは良き伝統を引き継ぐと同時に、「新たな伝統」をも育んでくれているという確かな実感を得た2日間でした。